

## 1. はじめに

新学期が始まったと思ったら、あっという間に中間試験も終わり、もうすぐ体育祭(10/12)・水高祭(10/26, 27)ですね。生徒の皆さんは準備に忙しい毎日を送っていることでしょう。特に本年度は体育祭の後、すぐに水高祭という厳しい日程になっています。本校のような小規模の高校では学校行事を行うのも本当に大変ですが、皆で協力して頑張りましょう！

実は、私はこれまで一度も本校の体育祭や水高祭に出かけたことがありません(すみません!)。聞くところでは体育祭はもちろん水高祭にはお客様が大変多く来校され、長い行列ができるらしいですね。地域の皆さんの期待に応えられるように、盛り上げていきましょう。私も凄く楽しみにしています。

## 2. 私の就職試験

### 人権・同和教育部 2年生担当 宮内洋介

私は3年生の担任をしているので、先月は3年生の就職試験に向けて面接や作文、筆記試験の指導をしていました。指導をしながら、時々自分の就職試験(教員採用試験)を思い出すことがありました。

私が就職試験を初めて受けたのは今から10年前です。まず準備に困ったことは自己PRです。3年生のみんなは経験しているので気持ちが分かるかもしれませんが、いざ自分の良さを挙げていくと、全くないわけではないけれど、なかなか出てこないものです。恥ずかしながらも友人に聞いて自己PRを考えていたことを覚えています。逆に友人から長所を言ってくれと頼まれたときは、すらすらと出てきて自分でもびっくりしました。

友人と一緒に一生懸命準備をしてきましたが、初め

て受けた試験は散々でした。なんといっても面接の出来がひどかったです。ものすごく緊張していて、余裕が全くなかったです。おそらく自信なさそうに答えていたと思います。面接の最後に、面接官が生徒役、そして私が教員役となって学校の一場面を演じました。(もちろんセリフはアドリブです。)とにかく会話が続かない。そして生徒役の面接官はとにかく教員役の私に抵抗する。地獄の時間だったため、いまでも思い出すと溜息が自然とこぼれます。結果はもちろん不合格でした。次の年も受験しましたが不合格で、その後何回も落ちました(涙)。

合格したときの面接は受け答えに困ることは全くなかったです。それは、講師として学校で働く中、生徒や同僚の先生との関わり合いで学ぶことができたおかげだと思います。

就職試験は自分がどんなに頑張っても、他の受験生がもっと良ければ不合格になってしまう厳しい試験です。「自分がやってきたことをどれだけ自信を持って言えるか」と「今後自分がどのような人間になりたいか」が問われていると思います。

## 3. 「人体実験」

いきなりギョッとするようなタイトルですみませんが、皆さんにぜひ知っておいてもらいたい史実を紹介します。



アメリカ合衆国のアラバマ州に **タスキーギ** という都市がありますが、この市は次の3つの点で知られています。

【裏へどうぞ!】

- 1) 黒人が人種差別と闘った公民権運動で「バス・ボイコット」のきっかけを作ったローザ・パークスの出生地である。



- 2) 第二次大戦中、黒人のみで編成された陸軍航空隊（パイロット）の訓練基地があった。



ジョージ・ルーカス監督作品  
「レッド・テイルズ」

- 3) 梅毒の人体実験が行なわれていた。

(参考：<http://www.cdc.gov/tuskegee/timeline.htm>  
<http://www.weblio.jp/>)

「タスキギー梅毒実験」と呼ばれるこの実験は、アメリカ公衆衛生局が1930年代から1970年代にかけて行った人体実験です。内容は、黒人男性の梅毒患者約400名に、本人たちには罹患していることを伝えず、全く治療をしないままその経緯を調査するというものでした。患者たちは政府機関による福祉として治療を受けているのだと思わされていました。そして研究対象となった患者およそ100名が亡くなったと言われています。(資料によっては、「約400名に梅毒の病原菌を注射し、故意に罹患させて経過を観察した」としているものもあります。)

では、「梅毒」とはどのような性感染症でしょうか。保健室の養護教諭、井原直美先生に解説していただきました。

梅毒は、トレポネーマという病原菌により感染する性感染症の一種です。皮膚や粘膜の傷口から病原菌が進入し、血液中に入って全身に広がります。感染したら、痛みのないしこり、リンパ節の腫れ、円形のあざができます。また、全身症状としては心臓、血管の炎症や神経の障害による麻痺、目などに重い障害が出ます。しかし現在ではほとんど見られません。ペニシリンの飲み薬や点滴の治療があります。

井原先生の解説にもあるように、梅毒には抗生物質の「ペニシリン」がよく効き、治療法は確立されていたのです。にもかかわらず、タスキギーの患者たちは治療を受けることはありませんでした。

この実験については、1997年に当時の米国大統領ビル・クリントンが正式に謝罪しています。クリントン大統領は生き残った被験者たちをホワイトハウスに招き、「政府のしたことは恥ずべきことだ。明らかに人種差別的な研究を組織したことを私は申し訳なく思う。あの研究活動は非人間的で残酷極まりない間違った行動で、学問的根拠もなかった。この人体実験は、米国民に対する政府による明らかな人種差別であった」と述べたそうです。

実は、私は最近、映画「レッド・テイルズ」を見てからタスキギーについて調べて行くなかでこの事件のことを初めて知りました。また、インターネットで調べてみると、タスキギーの他にも世界中で様々な「人体実験」が行われていたことが分かります…。

暗い気持ちになる「たより」になってしまい、申し訳ありませんでした。

(文責：古田千博)